

平成26年度

橋梁技術発表会及び講演会

— 100年橋梁を達成する技術 —

参加費無料
定員 **650** 名
申込先着順

平成26年

日時

10

金

10

13:30~17:40

13:30~13:40

開会の辞

一般社団法人 日本橋梁建設協会
会長 藤井 久司

13:40~14:00

橋建協報告

広報委員会

会場

銀座ブロッサム(中央会館)ホール

〒104-0061 東京都中央区銀座2-15-6

Tel.03-3542-8585

第1部:技術発表会

14:00~14:40

1.日本と米国における
取り替え鋼床版事例の調査報告

床版小委員会 鋼床版部会 川畑 篤敬

14:40~15:20

2.単径間ダブルデッキトラスの
送出しについて

架設小委員会 架設部会 横田 慎二

15:20~15:40

休憩

第2部:伊藤學賞表彰式

15:40~16:40

表彰式

16:40~16:50

休憩

第3部:特別講演会

16:50~17:35

限界状態設計法の維持管理への
適用と橋梁技術の統合化

埼玉大学 大学院理工学研究科
環境社会基盤国際コース 教授

奥井 義昭



17:35~17:40

閉会の辞

橋梁技術発表会実行委員会 委員長 上原 正

申込方法

- ①Fax. 03-3507-5235 (裏面の用紙に記載)
- ②ホームページ(URL) <http://www.jasbc.or.jp/>
の「技術発表会申し込み受付」まで(受付は9月初旬から)

申込期限

平成26年9月26日(金)

懇親会

銀座ブロッサム7階「マーガレット」にて18時00分から開催します。
参加ご希望の方は、発表会当日受付にてお申し込みください。

連絡先

一般社団法人 日本橋梁建設協会
〒105-0003 東京都港区西新橋1-6-11
西新橋光和ビル9階 Tel. 03-3507-5225

継続教育

CPDS認定予定

※大阪地区は 10月17日(金) ドーンセンター
東北地区は 11月 7日(金) 仙台国際センター
北海道地区は 11月14日(金) ホテル札幌ガーデンパレス
九州地区は 11月28日(金) レノラNTT夢天神ホール
中部地区は 12月 5日(金) 東建ホール

開催です。

申し込み等詳細はホームページでご確認願います。

第1部:技術発表会のPPTはホームページに掲載しますので、
ご希望の方はダウンロードお願いします。

アクセス



- 東京メトロ有楽町線「新富町駅」1番出口 徒歩1分
- 東京メトロ日比谷線、都営地下鉄浅草線「東銀座駅」3・5番出口 徒歩8分

1 日本と米国における取り替え鋼床版事例の調査報告

取り替え鋼床版は、日本では古い基準で設計、施工された橋梁のRC床版更新時に、橋梁本体の耐震性と耐荷力の向上を目的として採用することが多い。米国では、それに加えコンクリート系床版の劣化損傷が問題となり、100年以上の耐久性が期待できる床版構造として採用している。

今後、都市部で計画されている大規模更新工事などにおいて取り替え鋼床版のニーズが高まると考えられるので、日本と米国における取り替え鋼床版の事例を調査した。

2 単径間ダブルデッキトラスの送出しについて

本形式としては国内最大級の支間長(約155m)となる単径間ダブルデッキワーレントラス橋を送り出しにて施工した。

送出工法は、トラス橋の架設には通常採用されないが、河川への影響を最小限にし、環境負荷を低減させるために、あえて本工法を採用した。

送出し重量は約2,400トン、縦断勾配が5%(約8m)であるが、水平に送出した後に回転・横取りを行ない、最後に降下をして所定の位置に収めることができた。本稿では、その計画・施工について詳述する。

特別講演会 講演者紹介

1 限界状態設計法の維持管理への適用と橋梁技術の統合化

一略歴一

1983年 埼玉大学 工学部建設工学科卒業
1985年 埼玉大学 大学院 理工学研究科修士課程修了
1985-1989年、川崎重工業㈱勤務
1989-1993年、埼玉大学助手
1993-2009年、埼玉大学助教授
1996-1997年、デルフト工科大学客員研究員
2009年より、埼玉大学教授

奥井 義昭

埼玉大学 大学院理工学研究科
環境社会基盤国際コース 教授

講演概要

下記の2つのテーマについて講演する。

最初のテーマは限界状態設計法の維持管理への適用である。限界状態設計法は既設橋の維持管理においても非常に有用であることを紹介する。

2つめのテーマは橋梁技術の統合化である。最初のテーマも実は、限界状態設計法を用いて設計・検査・状態評価を統合化しているとも見なせる。海外の橋梁技術の動きをみていると、統合化が計画、設計、検査、状態評価といった、いろいろなレベルで行われているように思う。そのような事例を紹介する予定である。

FAX番号:03-3507-5235

平成26年度

10月10日(金)

橋梁技術発表会

[東京地区]

参加申込書

所 属

団体名

所属

氏 名

役職

氏名

住 所

〒

電話番号

FAX番号

E-mail

前回参加の有無 有 ・ 無